

日本体操学会会報 Vol.10/2013.11



ごあいさつ

「永続と発信」

日本体操学会会長 古川 善夫

伊勢神宮の第 62 回式年遷宮が行われている伊勢の国、三重大学で日本体操学会第 13 回大会が開催されました。

会場を提供して下さった三重大学は、「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共存の中で～」を目標に掲げています。この素晴らしい環境で、「人、物、音の関わり」をテーマに日本体操学会を開催できたことは、全国的なお伊勢参りの様に、永続性の大きな可能性を感じました。

積極的に「人、物、音」と関わることで得られた「動いて学ぶ・学んで動く」感動を、丁度お伊勢参りを生み出した伊勢人のように、全国に伝えていきましょう。

日本体操学会第 13 回学会大会報告



第 13 回学会大会が、伊勢神宮の式年遷宮でにぎわっている三重の地で開催されました。

- 期間 2013 年 9 月 14 日（土）、15 日（日）
- 会場 三重大学
- 学会プログラム（日本体操学会 HP 参照）

<http://www.taisou.org/index.html>



“緑のカーテン” in 三重大学
大学構内では環境教育が実践されていました。



基調講演

「体づくり運動における協同的学び」

講師 岡野 昇氏（三重大学教育学部教授）

学び手（私）と「対象」、「他者」、「自己」との関わりを三位一体として捉え、学習者がより良く学ぶための論が展開された。途中、実践を交えたり、映像や具体的な例が提示されたりして、分かり易く工夫されていた。また運動の経過における局面融合など、マイネルの運動学的な話題もあり、親しみ易く感じられた。かつてベースボールが「打球おにごっこ」と表現されていたことに因み、各種体操についてもその運動の特性を表現することばを探してみたいと思った。（後藤 洋子）



岡野先生による実技を交えた講演



基調講演の始まりは、
じゃんけんゲームで
スタート！堅苦しく
ない体操学会らしい
始まりとなりました。

ワークショップ1・2

ワークショップ1では、各講師がテーマに基づいた体操ならびに運動プログラムの提案を実施した。最初は、「人が人と関わる体操」をテーマに、三宅良輔氏がペアまたはグループで体操することの意義を説明しながら、組体操を実践した。次に、「人が音と関わる体操」をテーマに、後藤洋子氏が音楽の音を活用するだけでなく、靴を手で持ち床を叩くことで音を出しながら動く体操の提案をした。最後は、「人が物と関わる体操」をテーマに、長谷川聖修氏がラジオ体操の運動をベースに、様々な形や重さのボールを活用して引き出された動きを一連の体操として実践した。参加者からは、各講師の個性的で魅力的な指導に引き込まれ、豊かな動きを経験している様子が伺えた。(本谷 聡)



ワークショップ2では、ワークショップ1での提案をもとに、参加者自身も動きをつくり、発表するという時間が設けられた。

3人の講師がそれぞれのテーマで基本の動きを提示→参加者がペアやグループを作って創作→発表を見せ合う、という形式で行った。

「物と関わる」では、弾み具合が一緒ではないボールに皆で協力して動きを合わせようとし、「音と関わる」では、靴が音を出す立派な手具として主体的な体の動きを引き出し、「人と関わる」では、ぜんしん（全身、全心）で仲間と関わることによる笑顔がみられた。終了時には、参加者の充実感が伝わってきた。(高岡 綾子)



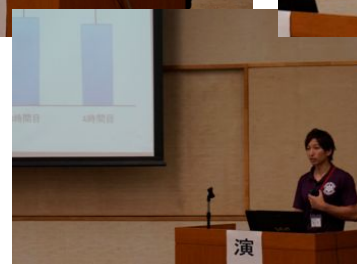
口頭発表

「JSA ボールエクササイズの心理的効果に関する研究」(柿本真弓)、
 「小学校中学年における G ボールを用いた『体づくり運動』の単元試案」(田村元延)、
 「折り返し運動における動きの質の高まりに関する実践的研究」(加納岳拓)、
 「小学校教員養成課程における体づくり運動に関する実践研究」(高岡綾子)

の4題であった(敬称、所属略)。発表内容は今回のテーマ「人、物、音との関わり」に関連した発表や学校現場における実践的研究とそれぞれ特徴的なもので、フロアーからも様々な意見や質問が出され活発な論議がなされた。当学会では大学関係の研究者以外にも社会体育の現場において指導されている会員も多く在籍していることから、今後は幼児から中高年者と幅広い世代を対象にした研究が数多く発表されることを期待したいと思う。(三宅 良輔)



10 分の研究発表
 5 分の質疑応答



ポスター発表



ポスター発表数は6題で、最初に各発表の概要が3分程度で説明され、その後各ポスターの前で研究の様子を撮影した動画の視聴、開発された用具・手具、また創案された体操の体験等による研究内容の再現を通して議論が深められた。発表内容はどれも**体操の多様性を垣間見ることのできる幅の広い研究**であった。このような**ポスター前での実技等を交えた発表**は、体験(再現)を通して研究結果を共有できることから、本学会に最も適した発表方法ではないかと感じた。(金子 嘉徳)

公募研究発表



長谷川聖修氏と6人の共同研究者による「小・中学校における体づくり運動の実践と評価に基づく改善」では、**ペアラジオ体操を発展**させた内容が発表された。より興味を持つためには音楽の要素が重要で、流行のアップテンポの曲を使うと、より楽しくできたことが事例を通して紹介された。(吉中 康子)

キッズプロジェクトの発展として申請されたのは、藤巻裕昌氏と12人の共同研究者による『“鳴子”を参考にしたオリジナル手具の提案および「Bo も Be もどーも」の親子バージョンの動作』であった。ペットボトルのキャップ・割り箸など日常にある“もの”を活かし作られた**スナップスティック**を用いた体操が紹介された。子ども達のグループワークなどの体験を織り交ぜた発表は効果的であった。



交流会



学会大会一日目の夜に、交流会が開催された。参加者同士の交流を深めるための時間が、三重の夜をより熱くしていたと思う。日頃、異なる場所で体操と関わっている方々が集まり、体操について、体操学会について、真剣にかつ笑顔で語り合った時間であった。会の最後は、翌日へのエネルギーに繋がるような見事な歌で締めくくられたのが大変印象的だった。(檜皮 貴子)



交流会で皆様に色々なご意見をお聞かせいただきました。その一部をご紹介します。

- ・ ワークショップで得た指導方法や指導内容がこれからの参考になった。
- ・ 体操学会であれば、多くの人が研究成果に興味を持って聞いてくれるという実感を得たため、私も今後発表を行いたいと思った。
- ・ 研究発表については、口頭の時間はもう少し長くても良いと思う。
- ・ 学会として、体操の本質について討論する場がもっとあるべきだと思う。

他にもたくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。今後の学会運営に役立てて行きたいと思います。



お世話になった三重大の皆さん

今後の予定

第14回学会大会の会場が、筑波大学に決まりました。日程は、平成25年9月13日(土)・14日(日)の予定です。なお、学術研究集会は、来年3月に同会場で開催予定です。詳細が決まり次第、学会HP等でご案内いたします。



新しくできた体育館
で皆様をお待ちして
います。



平成 25 年度日本体操学会理事会／総会報告

平成 25 年度日本体操学会理事会・総会が、9 月 15 日（日）に三重大学において開催された。平成 24 年度事業・決算並びに平成 25 年度事業計画・予算案が承認された。第 9 回学術研究集会は、平成 25 年 3 月 9 日（日）に、また、第 14 回大会は平成 25 年 9 月 13 日（土）・14 日（日）に「動きを遊ぶ」をテーマに筑波大学にて開催することとなった。その他として、2020 年東京五輪・パラリンピック開催決定に伴い日本体操学会として協力できることを検討して欲しいとの提案があった。（金子 嘉徳）



訃報

ありがとう、大島林子さん



日本体育学会体育方法専門分科会体操研究会で林子さんと知り合って 30 年余りの歳月が、林子さんが 10 月 11 日に亡くなられて 1 ヶ月が経ちました。そして、今、日本体操学会の立ち上げに大きな貢献を果たした彼女の声が甦ります。「みんなで動いて、素敵な体操人生を送りましょう」と。

学会の設立当時から、人と人との関係を大事に理事会やキッズプロジェクトなどの運営・発展を支えてくれた林子さん、ありがとう。

私達会員は、貴女が支えたキッズに留まることなく、貴女と誓った「0 歳から 100 歳までの体操」を動いて学びます。

会長 古川 善夫